

関西だいたい27号

ECOMAIL



関西 ECOMAIL

関西の学会員のみなさまに、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外の方々に、環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く回りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内とECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先：日本環境教育学会関西支部

郵便振替口座番号 00990-5-37886)

第43回 ワークショップのお知らせ

日時 9月30日(土) 14:30~17:00
会場 大阪教育大学天王寺キャンパス
本館1階南側S4教室(予定)
話題提供者 岡村悦治氏(グローバル環境文化研究所)
テーマ 「環境教育・啓発事業と広報のあり方」
—地方自治体の環境教育の取り組みを見て—



ワークショップ後、世話人会を予定しています。

於 天王寺キャンパス 第二部会議室

インフォメーション

第27号 目次

ピーター・バーグ
特別講演/シンポジウム/特別講座
のお知らせ...2~3
第42回ワークショップ(7/22)
の報告...4~5
連載企画〈阪神・淡路発!被災地は今〉
...6
関西支部第4回研究大会
開催のお知らせと研究報告募集 ~7
ネットワーク ~8

酸性雨の観測データ集1994年版 完成

滋賀自然環境研究会の阪口 進氏より関西支部に上記の冊子が送付されています。

滋賀自然環境研究会では、1986年から酸性雨の測定を始められています。観測地は滋賀県滋賀郡志賀町小野水明で、データ集の中には酸性雨の説明や測定方法、pHのグラフ、降水量・導電率のグラフ等が掲載されています。

なお、事務局では1993年のデータ集も保存しておりますので、ご覧になりたい方はあわせて事務局まで問い合わせ下さい。

ピーター・バーグ特別講座のお知らせ

タイトル／生命地域主義の指導者、ピーター・バーグ氏を迎えて

特別講座 「循環・共生のまちづくり」

日時／1995年9月16日（土）午後2時～4時

会場／大阪市市民環境学習ルーム（旧梅田東小学校）

申し込み・問い合わせ／市民環境学習ルーム宛に電話で

☎ 06-375-3402～3

ピーター・バーグ (Peter Berg) プロフィール

1937年アメリカ・ニューヨーク市生まれ。フロリダ大学卒業・プラネット・ドラム協会の創始者で会長と同協会の年報 (Raise the Stakes) の編集長・主筆。地域の自然環境と人間の活動を調和させ、持続的な地域社会を築こうとするバイオリージョン (生命地域)、リインハビテーション (土地に根ざした調和的・共生的・分権的な新しい生き方) の運動指導者で北アメリカや世界でよく知られています。また最近、バイオリージョナリズムの考え方を都市部に応用した「グリーン・シティ・プログラム (緑の都市計画)」も、行政・企業・研究者・一般市民などさまざまな人々に注目され、飛躍的な広がりを見せています。

グリーン・シティ・プログラム (緑の都市計画)

都市の持続性を考える研究グループ、中小企業、自治体、政府機関、研究者、環境保全団体などの参加を得て、緑の都市実現にむけての政策研究、試験的試みを進めています。サン・フランシスコ湾岸とその周辺地域 (シャスタ・バイオリージョン) をモデルにした研究については、『サン・フランシスコ湾岸とその周辺地域のためのグリーン・シティ・プログラム』にその成果がまとめられています。これは、再生可能なエネルギー、リサイクルから市民の発意の生きるまちづくり、環境にやさしい交通体系まで多様な問題を総括的にまとめた報告書になっています。ほかの都市でバイオリージョナリズムの考えに基づくプロジェクトを進める場合にモデルにもなり得るものです。現在、グリーン・シティ・ボランティア・ネットワークが結成され、情報交換のためのグリーン・シティ・カレンダーも一年に4度発行されています。特に青年のボランティアのための情報誌も出されています。さらにグリーン・シティ・プログラムを一般の人々に知ってもらうためのワークショップ開催など普及啓発・環境教育活動、学校教育のための地域の自然研究カリキュラム開発、都市の持続性を高めるためのハンドブック編集、農家と都市住民の交流プログラム主催、他の地域のグリーン・シティ・プログラムとの交流・情報交換推進、などの取組を現在進めています。

ピーター・バーグ特別講演／シンポジウム のお知らせ
タイトル／バイオリージョナリズムの指導者、ピーター・バーグ氏を迎えて
シンポジウム／22世紀へ 環境再創造
「環境生態都市を考えるー循環・共生のまちづくり」
日時／1995年9月17日（日）午後1時～5時
会場／エル・おおさか（府立労働センター）6F大会議室
申し込み・問い合わせ／グローバル環境文化研究所宛に電話かFAXで
☎ 06-222-3261 FAX 06-222-3262

バイオリージョナリズム（生命地域主義）

バイオリージョナリズムは、私たちの生活の場である地域を多様な生物の共生的な相互関係が持続性を保証する一つのまとまりを持つシステム（バイオリジョン、生命地域）として捉えます。

バイオリジョン（生命地域）とは、国境や州境のような人工的な境界で区切られた地域ではなく、一つの河川流域のようなまとまりを持つ生命系に重なる地域のことをいい、“すべての動物、物体、組織や機構において、それを越えて大きくなってはいけない最善の大きさが存在する。この最善の大きさを越えた時には、動物、物体、組織、機構の大きさ以外の要素は、すべて負の効果を被ることが予想される”（カークパトリック・セイル「等身大の規模（Human Scale）」）の原則に基づき、等身大の規模、人間の身の丈に合った大きさこそ、持続性があるだけでなく、効率的（例えば、環境に対する負荷が小さいだけでなく、経済的な能率の面でも優れている）であると強調しています。あるひとつの生命地域は、そのまわりの領域から、動植物相、水系、風土、岩や土の性質、土地の形態、そしてこれらの自然界の特徴の故に成立した人間の共同社会、そして文化といった特徴によって区別されるものです。

それぞれの土地をよく観察してその持続性を損ねないための制約条件を的確に見極めこれらの条件を人間社会のあり方（経済、政治、文化）に組み入れていくことが不可欠であると考えます。

これら制約条件は当然それぞれの地域によって大きく異なり、持続性を損ねないためにはエコロジカルな多様性は地域社会の経済や文化の多様性に反映せざるを得ず、バイオリージョナリズムでは地方分権による自立性の高い地域社会の実現が目指されることになります。

またグリーン・シティ・プログラムでも基本的には同じ考えが都市に適用され、今日の灰色の都市を自立性・持続性を高めた緑の都市に発展させることが目指され、さまざまな提言、計画、実験的な試みがなされています。

環境問題が深刻化し解決の必要の緊急性が指摘される今日、反対のための反対運動ではなく、こうした着実な実効性を持つ取組を展開すべきであるとの認識が強まってきています。

- 日本環境教育学会 関西支部 第42回 ワークショップ
- 期 日： 1995年7月22日(土) 14:30 ~ 17:00
- 場 所： 大阪教育大学 天王寺キャンパス
- 話題提供者： 廃棄物学会・日本化学会会員 千葉佳一
- テーマ： 「環境問題に係る今後の展開」
-主として環境ビジネス進展に向けての施策・提言-

要旨

1. 「環境調和型経済社会」のイメージ

我々が目指すべき経済社会は、「環境調和型経済社会」である。

即ち、(a) 省資源・省エネルギー、環境負荷の少ない持続的発展が可能な循環型の経済活動、ライフスタイルが実現され、(b) 社会の構成員全員が公平に役割・費用を分担するとともに、(c) 経済社会構造そのものが、社会の構成員に自覚を促す教育・啓発効果を持つ社会である。(図1 参照)

国民の理解促進を図るためにも、環境教育の充実は大切であり、各主体の幅広い取り組みが求められる。

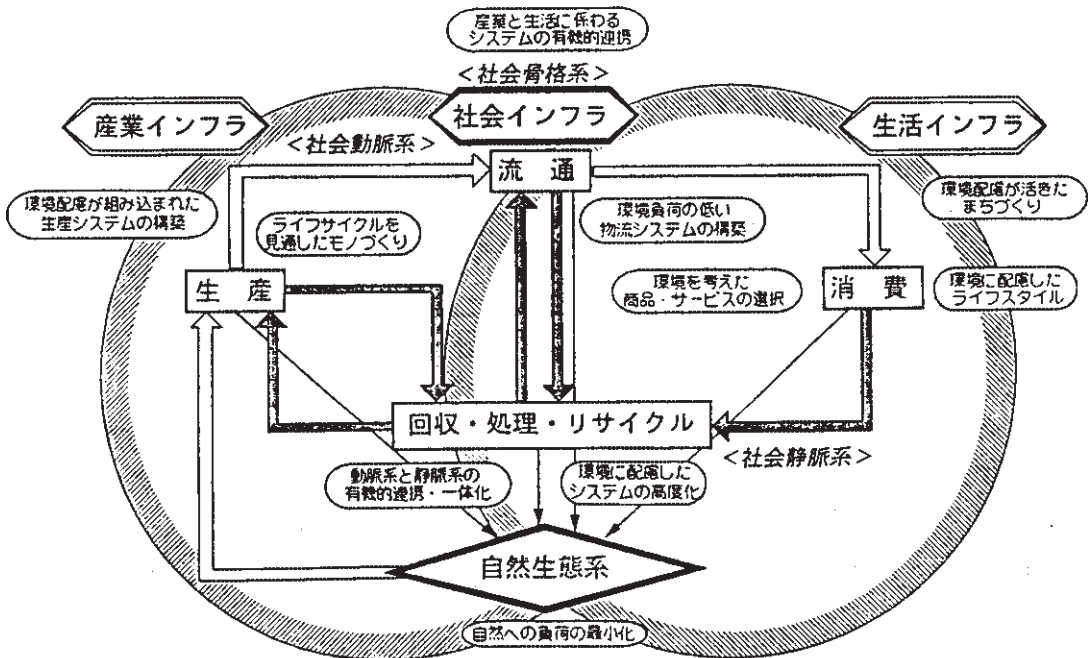


図1 環境調和型社会の方向性

2. 環境ビジネスの展開促進に向けての施策・提言

「環境調和社会」のイメージを踏まえた具体的施策は、概ね以下の通りである。
市場機能を積極的に活用するための条件整備として、

- 地域毎の特性などに着目した事業の創造・発展を図るための社会システム整備
- 環境調和型経済社会構築の必要性への理解を浸透させる社会・消費者啓発
- 環境負荷の抜本的低減を進めるような技術開発の促進
- 民間の活力を最大限に引き出すような需要促進策の充実
- 各主体の努力が最大限促されるような制度の構築

が必要である。個々の具体的施策は配布資料の通りであるが、これら個別の施策を有機的且つ国際的にも整合をとりながら実施していくためには、環境ビジネスのインキュベータ機能の整備を国、自治体、民間が一体となって進める事が重要と考える。この際、既存の組織や機構を最大限に活用しながら、

- 日本の環境技術を国際競争力の視点も考慮しつつ、途上国へ移転していくための条件整備
- 国民、国、自治体、民間が一体となって取り組むためのネットワークの形成

を行うことが必要である。

こうした施策によって、環境調和型経済社会構築に抜本的目標の提示等の政策的イニシアティブが推進され、これが積極的な投資を誘発して環境ビジネスの展開を促進し、環境調和型経済社会構築の推進力となることが望まれる。

個々の具体的施策例では施策内容、その期待効果や実施のための課題などを整理した。

(詳細は「環境ビジネス展開促進に向けての施策の概要」参照)

今後はこれらの施策の確実な成果をあげていく視点から、その実施の可能性や効果についてフィージビリティ・スタディを行うなど、さらに継続して研究を深めていくことが必要である。

たった十数秒の間に五千五百余名の命を奪い、数十万の住居や建築物を破壊した阪神大震災。あれから約半年、公的交通機関がやっと全面復旧し、人々は癒しようのない絶望感から徐々に立ち直りつつある。今、被災者は、復興の光を見つめようとしている。

震災以降、阪神地区では大震災に関連した討論会やシンポジウムが多数行われ、数々の提言やアピールが採択されている。また既存の学会や団体などでも震災や復興に関連した集会を催してきた。たとえば、アースデー25周年兵庫記念集会(4/22)では「大震災と環境問題」を、環瀬戸内海会議(6/3)では「地球からのメッセージを受けとめる―瀬戸内トラストオーナーの被災体験―」をテーマにして議論が行われた。このようななかで、環境教育学会関西支部では3月11日に甲南大学で行われた関西支部ワークショップ「防災教育と環境教育―自然災害を環境教育の中でどう捉えるか―」(話題提供者:藤岡達也氏)をはじめとして、4月15日のワークショップでは「ボランティアについて考える」(話題提供者:木内功氏)を、そして5月に千葉県立博物館で行われた日本環境教育学会第6回大会では、「阪神大震災と環境教育」というテーマで三つの小集会を企画した。

被災地ではきょう8月23日、地震で半壊した六甲ライナー住吉駅舎の修復が完了し、それまで不通だった魚崎駅=住吉駅間が開通した。これによって、震災以後約200日にして公的交通機関の全面復旧が完了した。一部地域でいまだに徒歩や自転車、代替バスで行われていた通勤・通学もやっと震災前の状態を回復することになった。しかし、交通機関の全面復旧とは対照的に、激震地区の住宅や神戸三宮を中心としたビル群、道路、特に国道43号線や阪神高速道路、ハーバーハウエイの修復にはまだ数年の歳月が必要である。また、避難所に避難している被災者の方々は、避難所の閉鎖に伴って食料や住居まで失おうとしている。さらに、震災の影響で開校の遅れた小、中学校や高校は、一学期が夏休みにずれ込んだため、休みを短縮し厳しいスケジュールをこなしている。

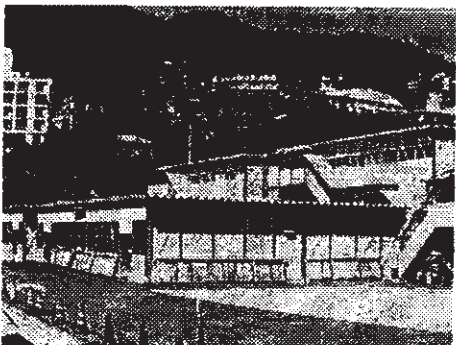
エコメールはこのような震災以後多発している問題や環境教育的に意義のある事態を、関西支部ワークショップや日本環境教育学会第6回大会で行った討論だけで終わらせてしまうのではなく、より長期的で幅広い視野のもとで議論していきたいと思っています。そこで、被災した方々の状況や、それ以降の被災地がどのように変化してきたか、職場や教育現場でどのようなことが行われているか、そしてこれらの体験がどのように環境教育に繋がってくるのかということについて、連載していく予定です。多数の投稿をお願いいたします。



3月11日の関西支部ワークショップ



神戸市立魚崎小学校グラウンドの仮設テント



甲南大学グラウンドの仮設校舎



神戸市魚崎南町の仮設住宅

日本環境教育学会関西支部第4回研究大会 — 開催のお知らせと研究報告募集 —

日時：1995年12月9日（土）

会場：奈良産業大学（奈良県生駒郡三郷町）

上記のとおり、第4回研究大会を開催します。会場は奈良の王寺の近くです（最寄り駅はJR関西本線〔大和路線〕三郷）。よろしくご参加下さい。

研究大会での会員の研究報告を募集します。テーマは特に指定しません。研究報告の題名、報告者名（共同報告の場合は、全員の氏名を連記した上で代表者を明記）、連絡先（電話番号も）、その他必要と思われる事項を葉書に書いて下記の実行委員会準備会事務局までできるだけ早くお送り下さい。報告に必要と思われる時間の長さもお知らせ下さい。報告時間の長さについては、報告者の数により調整させていただきます。また、報告者は予稿集のための原稿を事務局まで郵送して下さい（B5版1～2ページ、そのまま印刷できるもの、11月15日必着）。

自主的なワークショップやシンポジウムの企画については、事務局までご相談下さい。パネル展示などの様式による参加も可能です。当日のプログラムについては、後日お知らせします。

関西支部世話人会による第4回研究大会開催の決定を受け、このための実行委員会準備会が発足しました。秋には実行委員会が発足しますが、実行委員になっていただける会員は、その旨、9月15日までに事務局までお知らせ下さい。よろしくお願い致します。

関西支部第4回研究大会実行委員会準備会

（御勢久右衛門、谷口文章、本庄真、井上有一）

事務局：636生駒郡三郷町立野北3-12-1 奈良産業大学 井上有一研究室
☎0745-73-7800〔大学代表〕、☎0742-46-8255〔直通〕、
ファックス0745-72-0822〔大学代表〕

ネットワーク

◆ 錦織公園・遠足の下見ガイドツアー

錦織公園では、自然の姿をそのまま残しながら人と自然が仲良くなっているようにいろいろ工夫をしています。遠足時、今まで心にもとめなかった草花の生活、耳にも入らなかった小さい生命の声、踏みつけるだけだった落ち葉の中にも新しい発見の世界があり、心のときめきを感じていただきたいと思います。このときめきこそが次代を担う子供たちの教育に生かして頂く宝ではないでしょうか。

幼稚園・小学校の先生向けの「遠足の下見」ガイドツアーを行います。これは遠足の下見に来られる先生方を対象とするもので園内を案内しながら自然との触れ合い方について紹介し、遠足時の参考にして頂ければと思います。

〈日時〉 9月1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)の6日間。各13:00~17:00

〈集合〉 公園事務所に来られた順にご案内します。

〈コース〉 公園事務所から「やんちゃの里・河内の里」まで約1時間

〈ガイド〉 大阪自然環境保全協会・大阪シニア自然大学自然観察指導員

〈参加費〉 無料、但し参加を希望される方は事前に公園事務所までご連絡下さい。

〈主催〉 大阪府立錦織公園事務所
0721-24-1506 FAX0721-24-0240
〒584 富田林市錦織1500

※南海高野線滝谷駅又は近鉄長野線滝谷不動駅より徒歩各20分

◆ 第39回清里エコロジーキャンプ

1985年から山梨県の西北、八ヶ岳の麓「清里高原」で始まったエコロジーキャンプも回を重ねて39回。キャンプといってもテントに泊らず、飯合すいさんもキャンプファイヤーもない大人の学びの機会です。宿泊は落ち着いた山小屋風のキャビン。お食事も専属スタッフがヘルシーなメニューを用意します。プログラムはワークショップ形式で進められます。ワークショップとは学習者主体型の学びのあり方のこと。全体の進行は経験豊かなキープ協会環境教育事業部のスタッフがいきます。秋の気配がそこそこに見られる初秋の清里にぜひおいで下さい。

〈日時〉 9月14日(木)~17日(日)3泊4日

〈場所〉 ㈱キープ協会

〈テーマ〉 ちらかった自分を整理・編集する(あたまとからだの再編集)

〈ゲスト〉 津村 喬氏(作家、評論家、関西気功協会代表)

〈対象〉 一般30名(高校生以上)

〈参加費〉 一般4万円(学割3.5万円)

〈申込法〉 はがきかファックスで参加するキャンプ名、名前、年令、職業、電話番号、参加動機を書いてお申込み下さい

〈申込問合せ〉 ㈱キープ協会 キープフォレストアース・スクール
〒407-03山梨県北巨摩郡高根町清里3545

0551-48-3795 FAX0551-48-3228

◆ ネイチャーゲーム講習会

ステップアップセミナー

〈日時〉 9月2日(土)13:00~3日(日)15:30

〈会場〉 OAAはりまハイツ(加古川市)

〈参加費〉 15,000円程度

〈申込問合せ〉 日本ネイチャーゲーム協会
兵庫県支部 田中TEL FAX
0796-97-3275

※その他の問合せ 日本ネイチャーゲーム協会03-5376-2733

◆ 自然史博物館の自然観察会 テントウムシ

テントウムシの多くははねのホシの形で名前がつけられています。ナナホシテントウ、トホシテントウ、ニジュウヤホシテントウ等、ふつう模様は違えば別の種類です。でも、ナミテントウのように1つの種類でいろいろなタイプの模様をもつものもあります。テントウムシの種類の見分け方に挑戦してみましょう。そして、どんな場所で何を食べているか観察してみましょう。

〈日時〉 9月23日(土・祝)10:00~15:00

〈場所〉 淀川の河川敷

〈定員〉 50名(申し込み多数の時は抽選)

〈参加資格〉 小学3年以上(幼児不可)

小学生は保護者同伴です。

〈申込〉 往復ハガキに、テーマ別観察会「テントウムシ」に参加希望、参加希望者全員の氏名、年令学年住所、電話番号、返信用宛名を書いて、9月4日までに届くよう、自然史博物館普及係あてに送って下さい。

※その他、抽選の結果や、集合場所、持ち物など詳しいことは返信ハガキでお知らせします。

〈問合せ〉 大阪市立自然史博物館

06-697-6221 〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23

◆ ユースギャザリング イン オオサカ

明日を担う若者たちが、国境をこえて自然の中で生活を共にし、コミュニケーションの輪を広げる国際交流野外フェスティバルです。

〈日時〉 9月8日(金)~10日(日)2泊3日

〈会場〉 府立総合青少年野外活動センター(豊能郡能勢町宿野437)

〈内容〉 国際交流プログラム・野外フェスティバル・参加対象別の部会ごとの野外活動

〈募集〉 小学生(4年以上)70名 中学・高校生80名 青年(18才以上)250名 成人(40才以上)60名 外国青少年200名

〈申込問合せ〉 ㈱大阪府青少年活動財団
06-942-5146 〒540 大阪市中央区森ノ宮中央2-13-33

関西 ECOMAIL

第27号 1995年8月30日発行

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室) 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (☎0729-76-3211 [内線3127])

次回 第28号 1995年10月25日発行予定 原稿締め切り 10月11日